

品目	2017年度 (実績)		2018年度 (見込み)				2019年度 (見通し)		コメント			
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率%				
			伸び率%	伸び率%	伸び率%							
総額	76,773	+13.7%	40,155	+10.0%	42,896	+6.5%	83,052	+8.2%	→ 83,815	+0.9%	2年連続の増加。	3年連続の増加。
IM 01 食料品	7,130	+11.2%	3,632	+2.2%	3,768	+5.4%	7,400	+3.8%	↑ 7,525	+1.7%	肉類を中心に国内需要が緩やかに増加し、主に数量が寄与して輸入金額は増加する。	引き続き肉類を中心に輸入数量が増加するが、輸入金額の増加幅は縮小する。
魚介類	1,671	+12.4%	806	▲3.2%	847	+1.0%	1,653	▲1.1%	↓ 1,598	▲3.3%	まぐろ:国内需要の緩やかな減少を受けて数量は微減。一方で高価格マグロの需要は増えているため価格は上昇し、金額は増加を見込む。さけ・ます:需要も減少傾向にあり数量は微減、価格は国産天然の不漁により高い水準にあるため、金額は増加する。えび:数量がやや減少し、価格も前年比安で推移する。	まぐろ:数量の微減を見込むが、価格は海外の需要が旺盛なため上昇する。さけ・ます:数量は引き続き微減、価格も低下するため金額は減少。えび:18年度と同様の傾向が続く。
肉類	1,488	+13.1%	781	+2.4%	758	+4.3%	1,538	+3.4%	↑ 1,621	+5.4%	肉類は国内需要が堅調に増加する。豚肉:国内需要はやや増加し、価格は横ばい。牛肉:数量が増加するも豪州の干ばつなどもあり価格は上昇に寄与する。鶏肉:価格が17年の反動で低下しており、減少を見込む。	豚肉:価格は横ばいも輸入数量が増加。牛肉:堅調な国内需要から数量は増加、価格も上昇する。鶏肉:価格は横ばいで推移するも数量が増加し、金額は増加する。
IM 02 原料品	4,861	+19.4%	2,577	+6.2%	2,466	+1.3%	5,043	+3.7%	→ 5,087	+0.9%	原料品は増加する。非鉄金属鉱物の銅鉱の数量増、価格上昇が見込まれる一方、鉄鉱石は生産不調が影響し数量減、価格は横ばい。	原料品はほぼ横ばい。銅鉱は4つの製鉄所で炉修が見込まれるため数量減、価格は上昇となり、鉄鉱石は粗鋼生産の回復により数量増、価格は横ばいとなる。
鉄鉱石	1,098	+34.0%	526	▲7.0%	558	+4.9%	1,084	▲1.3%	→ 1,093	+0.8%	国内需要は首都圏再開発や五輪需要により建築分野で、また外需を中心として自動車、建設・産業機械需要が好調に推移するが、上半期に各社での生産不調など(生産トラブル、西日本豪雨)があったため数量は微減する。価格は17年度よりやや低下し金額は17年度比で減少。	国内需要は底堅く18年度と同水準で推移。粗鋼生産は、18年度は予算達成ができなかったが19年度は達成し、全体の粗鋼生産が回復するため数量は増加する。価格は18年度よりやや低下し数量は微増となるため、金額がほぼ横ばいとなる。
非鉄金属鉱	1,468	+20.6%	831	+14.1%	813	+9.9%	1,644	+12.0%	↑ 1,717	+4.4%	銅製錬所の炉修が少なく、数量はやや増加する。価格は17年度比で大幅に上昇するため金額は大きく増加する。	製錬所で炉修が見込まれるため数量は減少する。価格が上昇するため金額は増加する。
IM 03 鉱物性燃料	16,237	+23.6%	9,146	+26.5%	11,052	+22.7%	20,198	+24.4%	↓ 19,227	▲4.8%	数量については省エネルギーの進展などから原油が減少傾向にあるも、全体としては国内の緩やかな景気の回復を受け、堅調に推移。原油価格上昇により、輸入金額も増加。石炭は、主要産出国である豪州の供給力の不安定さが価格を一段と押し上げることに加え、国内の火力発電や鉄鋼生産が高水準を維持するなかで、数量面でも緩やかな増勢が持続。	省エネルギーの進展や再生可能エネルギーへのシフトなどから数量が減少することに加え、原油価格上昇が一般することから、輸入金額は微減。石炭も高品位炭を中心に世界需要が底堅さを維持するもとで、一時的な価格下落には至らないが、17年度からの価格高騰が一般することにより頭打ち。
原油及び粗油	7,282	+17.8%	4,304	+34.3%	4,995	+22.5%	9,299	+27.7%	↓ 8,395	▲9.7%	数量については、太陽光発電やLNGの台頭により火力電力用途の原油需要は減少傾向が継続。	国内市場の縮小による石油製品の需要減も加わり、19年度においても例年同様輸入量が減少する見通し。
石油製品	1,666	+40.9%	921	+37.3%	1,187	+19.4%	2,108	+26.6%	↓ 2,045	▲3.0%	原油価格上昇に伴い価格が上昇し、輸入金額は増加。足元の需要は緩やかに回復する景気などにより数量も堅調に推移。	原油価格の上昇が落ち着くことに加え、国内景気の減速により需要が微減。
LNG	4,072	+22.1%	2,172	+16.7%	2,857	+29.2%	5,029	+23.5%	↑ 5,246	+4.3%	LNGはデリバリーされる3ヶ月前の原油価格にリンクしていることが多く、原油価格の上昇に伴い金額も増加。	原子力関係の影響や日米通商交渉などの不透明性に鑑み、18年度と同水準を想定。
LPG	622	+31.5%	313	+25.8%	457	+22.6%	770	+23.9%	↓ 727	▲5.6%	原油価格上昇に伴い価格も伸長するほか、数量も冬場の需要期を迎え、上半期に比べ需要増が見込まれる。	原油価格の上昇が一般することに伴い、価格は横ばい。都市ガス用の需要増が見込まれるものの、家庭業務用・自動車用・化学原料用の需要が減少するため、LPG需要は微減となる見通し。
石炭	2,544	+32.9%	1,396	+13.8%	1,516	+15.1%	2,912	+14.5%	↓ 2,756	▲5.4%	一般炭、原料炭ともに増加が続く。主要産出国である豪州の供給力の不安定さ(輸送ボトルネックなど)が価格を一段と押し上げ。加えて、国内の火力発電や鉄鋼生産が高水準を維持するなかで、数量面でも緩やかな増勢が持続。	一般炭、原料炭ともに頭打ち。17年度からの価格高騰が一般することが主因。ただし、高品位炭を中心に世界需要が底堅さを維持するもとで、一時的な価格下落には至らず。
IM 04 化学製品	7,825	+9.7%	4,154	+10.6%	4,242	+4.3%	8,396	+7.3%	↑ 8,687	+3.5%	石油化学製品:国内エチレン生産設備の定期修理により供給がタイト化し、輸入数量、金額ともに緩やかに伸びる。医薬品:抗がん剤などを中心に需要の拡大が続くため、輸入数量、金額ともに緩やかに伸びる。	石油化学製品:原料となるナフサの価格が上昇基調にあり、米国からシェールガス由来の基礎原料の輸入が増加することが予想される。医薬品:高齢化を背景に需要が堅調に増加。19年度中に消費税率引き上げに伴う薬価改定が予定されており、輸入金額にも影響を与える。
IM 05 原料別製品	6,971	+13.3%	3,718	+9.4%	3,758	+5.2%	7,475	+7.2%	↑ 8,065	+7.9%	鉄鋼や非鉄金属の数量は、堅調な国内需要を反映して横ばい圏を推移。織物用糸及び繊維製品は17年度並みの伸びとなる一方、価格には上昇傾向がみられることもあって、全体の金額は17年度比増加の見込み。	全体の金額の増加率は18年度並みとなる見通し。鉄鋼の数量は横ばい圏で推移、価格は小幅上昇。非鉄金属は数量、価格ともやや上昇の一方で、織物用糸及び繊維製品は増加ペースが鈍化する。
鉄鋼	943	+27.3%	503	+9.2%	513	+6.5%	1,017	+7.8%	↑ 1,027	+1.0%	国内需要は堅調も数量は微減で推移。価格上昇により金額が増加する。	国内需要は引き続き安定的に推移し、数量はほぼ横ばい。価格が小幅に上昇するため金額がやや増加する。
非鉄金属	1,810	+26.8%	1,014	+17.7%	1,001	+5.6%	2,015	+11.3%	↑↑ 2,341	+16.2%	アルミニウム:在庫は適正水準25万トンを上回る30万トンに増加。数量はほぼ横ばいとなるが価格はやや上昇するため金額は増加する。白金族:プラチナは投資横ばい、自動車触媒需要微減、パラジウムは自動車触媒増加のため数量増。プラチナの価格はほぼ横ばい、パラジウムの価格は上昇するため、金額は増加。	アルミニウム:堅調な需要を背景に数量増加が継続。地金価格は高水準で推移するため金額も増加する。白金族:18年度よりパラジウムの数量が増加し金額が増加する。
織物用糸・繊維製品	926	+6.1%	476	+3.8%	505	+8.0%	981	+5.9%	↑ 998	+1.8%	数量、価格ともに17年度並みの伸びが持続。数量は、自動車はじめ機械類の部材を中心に緩やかに増加。価格も、機械部材などで原料コスト上昇の反映が進む。	増加ペースが鈍化。米中貿易摩擦が続くもとで、アジア市場で需給が緩み、価格が頭打ちとなることが主因。数量面でも、国内景気の減速が輸入の増勢を弱める要因に。
非金属鉱物製品	703	+4.4%	371	+7.9%	342	▲4.7%	713	+1.5%	↓ 702	▲1.5%	ガラス及び同製品:日本経済の成長が緩やかに減速するなかで、輸入原材料・製品への需要も緩やかに鈍化。年度後半にかけて、先行き不透明感が高まることから、一層の加速は想定しがたい。ダイヤモンド:輸入数量は減少トレンドのなか、足元で底打ち。価格には持ち直しの動きもみられる。	ガラス及び同製品:さらなる成長鈍化によって、数量は横ばい圏から18年度をやや下回る程度。為替レートなど価格要素は追い下げ要因とならないことから、全体としては横ばい圏。ダイヤモンド:18年度からの調整もあって、減少トレンドのなかで、輸入金額は減少。
IM 06 一般機械	7,412	+15.4%	3,868	+6.5%	3,928	+4.0%	7,796	+5.2%	↑ 7,954	+2.0%	電算機類は数量増加するも、価格が下落したことにより、17年度比減少。原動機は航空機内燃機関がけん引役となり17年度比増加。エアコンは酷暑の影響で好調。	電算機類の価格下落が一般し、OSサポート終了に伴う買い替え需要で18年度比増加。一方で一般機械全体では景気減速を受けて伸び率が鈍化。
電算機類(含周辺機器)	2,009	+15.0%	924	▲3.2%	1,021	▲3.2%	1,945	▲3.2%	↑ 1,990	+2.3%	17年度の2ヶ月前から減少に転じる。収益改善や働き方改革を背景としたIT投資の拡大により、法人向けを中心とした数量増が続くものの、価格が大幅に落ち込み。価格の下落は、パソコン輸入の中心が高付加価値品(高性能CPU搭載やゲーム用など)から、シンプルな機能に絞ったモバイルノートへ変化していることによる。	小幅ながら再び増加へ。OS(Windows7)のサポート終了(2020年1月)に伴う買い替え需要が本格化するなかで、法人需要主導の数量増が続くほか、価格の下落も一服。
IM 07 電気機器	12,130	+11.1%	5,785	+3.4%	6,206	▲5.0%	11,992	▲1.1%	↑ 12,820	+6.9%	通信機は携帯電話の買い替えサイクル(2年)の谷になり、基地局は5G普及に向けての設備投資がまだ実施されない見込みから、輸入は低調とみられる。また、半導体等電子部品は、ICはサーバーや高性能パソコン向けのプロセッサなどの高価格化が進むが数量はPCや家電などの汎用品向けの需要が一服したことにより、上半期と同様減少を見込む。	通信機は2年周期の山にあり、特に上半期は10月の消費税率引き上げを前に新機種種の輸入増加要因が加わって増加する見通し。また、半導体等電子部品は、ICは数量は前年割れするが、価格上昇に支えられ輸入金額は微増。
半導体等電子部品	2,792	+10.6%	1,390	+0.3%	1,299	▲7.6%	2,689	▲3.7%	↑ 2,774	+3.2%	ICはサーバーや高性能パソコン向けのプロセッサや記憶素子の高価格化が進むが数量は上半期と同様減少を見込む。	ICは数量は前年割れするが、価格上昇に支えられ輸入金額は微増。
通信機	3,130	+12.6%	1,299	+4.2%	1,462	▲22.4%	2,761	▲11.8%	↑↑ 3,246	+17.6%	18年度は携帯電話の買い替えサイクル(2年サイクル)の谷間になることから輸入は低調とみられる。また5G普及に向けての設備投資はまだ実施されないと考えられるので、基地局関係の輸入も低調とみられる。	19年度に関しては2年の買い替えサイクルの山、消費税率引き上げ、5Gの普及に向け、輸入は伸びる見通し。増税前の9月には海外メーカーは新機種を発売したい意向があることから、7・8月に輸入が伸びると考えられる。
IM 08 輸送用機器	3,219	+4.3%	1,744	+12.1%	1,709	+2.7%	3,453	+7.3%	↓ 3,391	▲1.8%	自動車関連は主にドイツ車を中心とした販売が上半期に引き続き好調。航空機類も外国人旅行者の増加を見込んだ航空機・部品などの機材調達拡充などにより堅調の見通しで、輸送用機器全体で17年度比7.3%の増加。	自動車関連は需要の一服、また、航空機類も18年度同様に機材調達拡充の動きはあるものの若干の減少を見込み、輸送用機器全体で18年度をピークに18年度比1.8%の減少。
自動車	1,376	+16.1%	709	+11.1%	750	+1.6%	1,459	+6.0%	↓ 1,427	▲2.2%	輸入数量はドイツ車を中心に17年度に引き続き好調を継続も18年度がピークと予測。19年度には踊り場に。	輸入数量は需要の一服感から18年度をピークに微減。また、価格はユーロの持ち直しにより上昇も、数量減の影響もあり金額は減少基調。
航空機類	540	▲23.3%	393	+40.1%	290	+11.6%	683	+26.4%	↓ 670	▲1.9%	航空機の輸入は2~4年程度の受注生産ながら、外国人旅行者の増加を見込み航空機・部品などの機材調達を拡充。政府調達についても機材の更新や新規整備品の拡充を進めており、全体として堅調。	航空機の輸入は2~4年程度の受注生産。19年度も18年度の動きを引き継ぐものの、若干の減少をみる。
IM 09 その他	10,989	+7.6%	5,530	+3.2%	5,768	+2.4%	11,298	+2.8%	↓ 11,058	▲2.1%	精密機器類:医療関係は消耗品を中心に増加。計測機器類は旺盛な国内設備投資を追い風に増加。一方で、半導体・液晶関連は最終製品の生産拠点の海外移転を一因に伸び悩む。その他雑製品:がん具は一部新製品の押し上げ効果が剥落。家具等は国内住宅着工の頭打ちを背景に伸び悩む。	18年度以来の頭打ち傾向が強まり減少に転じる。消費税率引き上げは一部品目で18年度後半から輸入金額を押し上げるよう働くも、引き上げ後の落ち込み幅がやや上回る見通し。
衣類・同付用品	3,100	+4.1%	1,654	+8.4%	1,639	+4.1%	3,293	+6.2%	↑ 3,390	+2.9%	国内市場全体では低迷が続いているが、品目毎には好不調にばらつき。このもとで、ファッション性を高めたワーキングウェア(主に建設作業用)やスポーツウェアなどの需要増が、輸入の増勢加速に寄与。	国内景気の減速に伴い伸びは鈍化。ただし、20年の東京五輪開催を控えるなか、スポーツウェアやスポーティーなカジュアルウェアの市場投入が輸入を下支え。
製品輸入	48,545	+10.5%	24,799	+6.4%	25,611	+1.4%	50,410	+3.8%	↑ 51,976	+3.1%	製品輸入比率60.7%(前年度比▲2.5ポイント)	製品輸入比率62.0%(前年度比+1.3ポイント)

*2018年度上半期の実績は9桁速報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。
*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している